

命救った 瞬時の判断 佐賀の2人に警察庁長官感謝状

山田健太郎さん

佐賀市金立町金立、佐賀工業専門学校講師山田健太郎さん(26)は車で通勤中、同市の川で軽乗用車が流されているのを見つけた。昨年10月9日朝のことだ。

車を止めて、川沿いまで駆けつけた。車は後部を先にして流されていく。運転席で女性が「助けて、助けて」と叫んでいた。携帯電話で119番通報している時、窓が開いた。一気に水が車内に入り、女性の首もとに迫った。その場で車も沈み始め

危険な状況だったにもかかわらず、人命救助にあたったとして、県内の男性2人に警察庁長官感謝状が贈られ、25日に伝達式があった。県警監察課によると、同長官感謝状は県内では1967年9月、集中豪雨災害時に人命救助にあたった伊万里市民以来という。

佐賀市鍋島2丁目、総合商社社長坂本徹哉さん(62)が昨年9月18日朝、車の助手席に乗っていた時だった。「トラックが人を巻き込んで走っている」。運転していた息子の伸也さん(32)の声を響いた。

場所は武雄市の国道交差点。横断歩道を自転車で横断中の女子高生が、大型トラックが左折する際に巻き込まれたのだ。トラックはそのまま信号待ちをしていた自分たちの車に近づいてくる。人を巻き込んだこと

坂本徹哉さん

川に沈む車から 2人引き出す

「このままでは間に合わない」。電話を切り、服、革靴のまま川に入り、なんとか足がつく深さのなか、泳いだり、跳びはねたりして車に近づく。ドアを開け、女性の肩を抱え、流れの強い中、岸近くまで連れていき、救助にきていた2人に引っ張ってもらった。

「もう1人助手席にいる」。女性からそう聞き車に戻って男性も救助した。山田さんは中学時代は水泳部で泳ぎは得意。「考えるひまはなかった。体が自然に動いた」と振り返る。



感謝状をもらった坂本徹哉さん(左)と山田健太郎さん＝県警本部

巻き込み事故 トラック止める

に気付いていないようだった。坂本さんは車を降り、空手三段の屈強な体でトラックの前に立ち塞がった。速度はそれほど出ていなかったが、止まったトラックとの距離は1メートルほど。巻き込んで20メートルほど進んでいた。

車体を上げるようトラックの運転手に促し、伸也さんと、双子の兄弟の大輔さん(32)が車体下から女子高生を救い出した。坂本さんは「そのまま走っていったら、女子高生の命が危なかった。瞬間の行動でしかなかった。命を救えてよかった」と話した。